

【AO 入試研修会 講義内容】

☆3回目・・・文の添削の仕方

【コンテンツ】

- 1・添削をおこなうにあたって
- 2・文章の練習はまず・・・
- 3・添削の三つのポイント
- 4・添削具体例

先生の不安は・・・・・・どこをどうやって添削をするのか？

- ・文章を書くことに自信がない
- ・添削する際の基準が分からない
- ・生徒の文章ではなく、自分の文章になってしまう

1・添削をおこなうにあたって

文章の添削には他の科目のような絶対的な解答がない。そのため、先生に対する信頼関係が重要となる。だからこそ、添削という作業がどういうことなのかを生徒にしっかりと認識させる。

もっとも効果的なのは、生徒が認識できるほど文が良くなる添削をすること。

生徒に納得させたうえで、下記のことを説明する。

- ①入試では大学の先生が採点をする。⇒文章には読み手が存在する
- ②字を丁寧に書く、原稿用紙のルールに従う、正しい書き言葉で書くといったことは、すべて書き手ではなく、読み手のためにあるルール
- ③五ミリ方眼のノートを用意させ、書く際は端を空けるように指導する。⇒添削を残す。

2・文章の練習はまず・・・

文章を書く授業を行う際は、必ず簡単で短い文章から

文章の巧拙に学年は関係がない

【例】

50字の自己PR

⇒読み手の想定 添削の効果

【例文 高2生】

私の名前は○△×◇だ。平成13年9月15日に生まれ、現在は東京都三鷹市にある中高一貫校に通っている。

名前・生年月日などの固有名は不要

短い文章では「表現技法」が有効

好きなこと・得意なことをアピールする

【添削後】

誰とでも気軽に仲良くすることができ、人を楽しませることが大好き。ロボットダンスを得意とするダンサー。

【例文 中2生】

僕は本を読む事が好きです。好きな本の作者は、太宰治さんで最も好きな作品は、「晩年」という作品です。

太宰治 / 『晩年』 ⇒ イメージできる固有名詞

本を読む事 ⇒ 読書 / 本の作者 ⇒ 作家 / 太宰治さん ⇒ 太宰 作品は～作品です ⇒ 作品は～です。

文章をすっきりとさせるための添削

⇒僕は読書が好きです。好きな作家は太宰治で最も好きな作品は、「晩年」です。(36)

「太宰好き」だけでは、情報が少ないうえに字数も足りないのでいくつか追加してみる

⇒太宰の「晩年」を愛読しているぼくは、ネクラに思われがちだが、実はサッカーも上手いスポーツマンだ。(48)

【例文中2】

僕は数学が得意で学年トップを2回とりました。それは長所である諦めないことが生かされていると思います。

⇒まったく別の要素を入れてみる

粘り強い思考を武器に得意な数学は学年トップ。でも、机に積まれているのは、数学の本ではなくワンピース。

文章を書く授業の導入部は簡単で、わかりやすいことが重要！